

報道関係各位

平成 27 年 10 月 13 日
一般財団法人 沖縄美ら島財団

事故死のアオウミガメの卵 人工ふ化に成功！ ふ化したアオウミガメを放流します

一般財団法人 沖縄美ら島財団（本部町）は、8 月 16 日に大宜味村喜如嘉の国道 58 号において、交通事故で死亡したアオウミガメの体内から 80 個の卵を摘出し、人工ふ化を試みました。摘出から 54 日後の 10 月 10 日に、初めてのふ化が確認されました。

10 月 14 日（水）午後 8 時に大宜味村喜如嘉の砂浜にて、ふ化幼体の放流を行います。

<救出の経緯>

- ・平成 27 年 8 月 16 日深夜に大宜味村喜如嘉の国道 58 号で、産卵のために上陸してきた雌のアオウミガメが車にひかれて死亡しました。
- ・翌日の 8 月 17 日に（一財）沖縄美ら島財団 総合研究センターにおいて解剖し、80 個の卵を摘出し、沖縄県との調整の上、専用の孵卵器内で人工ふ化を試みました。

<ふ化幼体の状況>

- ・10 月 13 日時点でふ化した幼体のうち、約 10 個体を放流します。
- ・事故死した母ガメから摘出した卵がふ化した事例は、世界的にみても例がありません。
- ・放流後の生存率の向上を考慮し、今回は「フレンジー」状態で、夜に放流することを優先いたします。

<ふ化・脱出に関わる生態>

ふ化直後のウミガメはほとんど動きません。ふ化から数日後に活性が上がり、地表へ向かって移動します。地表下 10 cm 程度に達すると、多くの場合はいったん待機して夜になるのを待ち、いっせいに地表へと脱出します。脱出したふ化幼体には光に向かって進む正の走光性が生まれつき備わっており、夜間の海が少し明るいことを頼りに海へ進みます。同時に、「フレンジー」と呼ばれる興奮期が約 24 時間続き、この時期を過ぎると静止してしまいます。これは、捕食者の多い沿岸域を早く離れるように適応した本能だと考えられています。したがって、この「フレンジー」の期間を過ぎたふ化幼体は、外洋に行けずに死亡する可能性がかなり高くなります。

[放流時のご取材につきまして]

- ・放流時には、ふ化幼体に影響する照明やフラッシュなど光の使用を控えさせていただきます。ご不便をおかけしますが、ふ化幼体の放流へのご理解ご協力のほどお願い申し上げます。
(放流前であれば照明・フラッシュはご利用できます)
- ・放流時、機材は赤外光や高感度カメラをご使用されますようお願い申し上げます。またご取材の際は事前にご一報頂けますと幸いです。



<資料貸出や取材に関するお問い合わせ>

一般財団法人 沖縄美ら島財団 経営企画課 上間・又吉

TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-2200